

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュくらまえ		
○保護者評価実施期間	令和7年6月10日		～ 令和7年6月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名 (19家庭)	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和7年6月10日		～ 令和7年6月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2007年7月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体を大きく動かす粗大運動、工作などの微細運動、外出レクや事業所内でのお祭りごっこなど、子どもの「やってみたい」気持ちに寄り添った支援を提供している。	・子どもたちで話し合い、お祭りごっこやカフェごっこ、おぼけ屋敷制作など、子どもたちが主体となって活動の計画、実行をしている。 ・事業所内の資源を活用したり、時には一から制作したりと、子どものやりたいことを最大限寄り添って実行出来るように柔軟性を持って取り組んでいる。	・法人内での研修を受け、知識のアップデートや、療育に対する理解を深めていく。 ・他事業所と情報交換をし、新しい遊びや外出先の開拓等、子どもの気持ちに寄り添いながら新しい遊びも提案していく。
2	様々な個性を持った子どもたちが、自分らしく安心して過ごす時間を提供している。	・子ども一人一人と職員がしっかり関わる時間を設け、子どもが自分の思いを職員に伝えやすい環境作りを行っている。 ・様々な活動を提供し、それぞれが主役になれる時間を設けている。	・法人内での研修を受け、知識のアップデートや、療育に対する理解を深めていく。 ・職員間での情報共有をこまめに行い、保護者への伝達、保護者からの伝達に漏れがないようにしていく。
3	岡崎4事業所の関わりが深く、いつでも相談ができ、助け合える関係にある。	・それぞれの事業所の状況を把握し合い、困った事などいつでも相談できる環境がある。 ・合同での漢字・算数検定など、事業所同士が関われる機会があり、職員同士だけではなく子ども同士もより広い関わりを持っている。	・勤務時間の関係で研修に出席することが難しい非常勤職員も、他事業所と関わりが持てるような機会を検討していきたい。 ・合同レクなど、今以上に子どもたちが交流できる支援を検討していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が狭い。	法令に定められた広さは確保しているが、体を思いきり動かしたい子どもにとっては狭く感じるかと思う。	・学習室の机を動かしてスペースを確保する、高さを活用し、縄梯子など上に登る遊びを取り入れる、安全の確保した駐車場や近くの公園を活用し、大人数で固まらないように工夫している。事業所を広くすることは難しいので、今後も使っていないものが置きっぱなしになっていないか意識したり、狭い空間でも体を動かせる遊びを取り入れるなどの工夫をしていく。
2	保護者に向けた研修や交流会の機会が少ない。	家族支援(懇談会)は年2回行ったが、法人が変更したこともあり、以前より保護者に向けた研修や交流の機会が減っている。参加保護者の少なさや、職員配置の難しさも要因となっている。	新たな保護者の交流の場としてクッキング教室を開催しますが、どのようなイベントなのか想像しづらいのか、参加率は芳しくない。どのようなイベントなのか口頭でお伝えするだけでなく、インスタやハグ等を活用してお伝えしていく。
3	緊急時に非常勤職員のみでの対応が難しい。	年2回の避難訓練を行っているが、常勤が中心になりがちである。また、緊急時対応マニュアル等、対応マニュアルを策定しているが、非常勤職員は職員配置の関係もあり、しっかりと読み込む時間の確保が難しい。法人での研修も非常勤職員が勤務していない時間が多く、研修を受けづらい状況にある。	避難訓練で非常勤職員のみで対応する練習をする。非常勤職員は基本的に子どもがいる時間中心の勤務のため、感染症への対応など、子どもと一緒に学べる機会を設ける。法令に定められた訓練だけでなく、普段の活動の中にも緊急時の対応を取り入れていく。